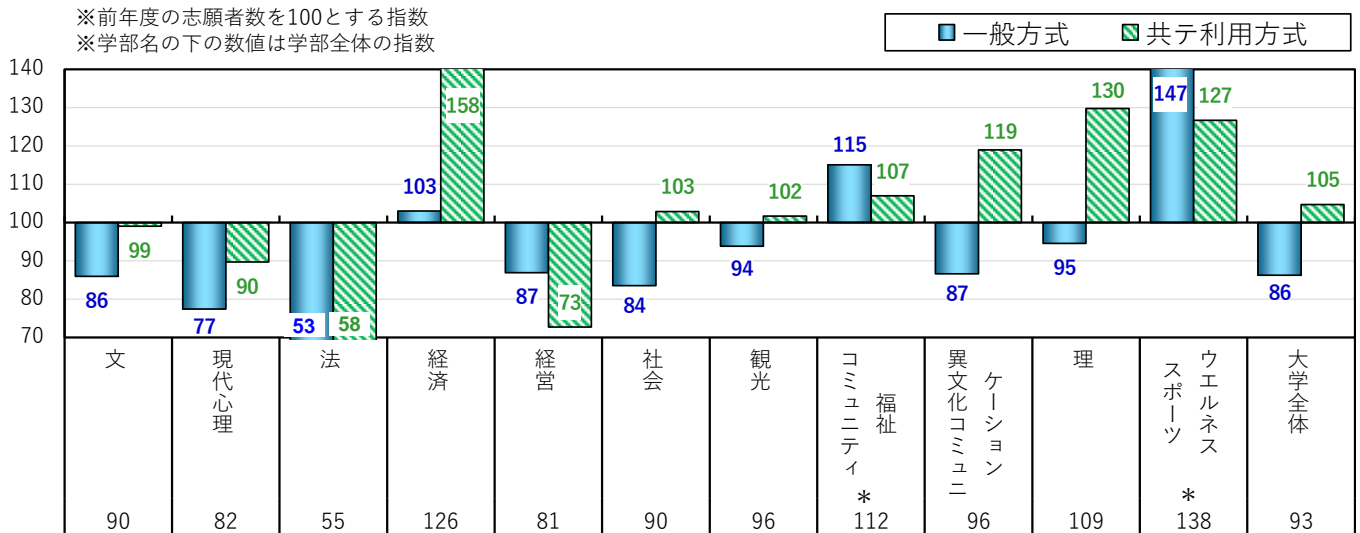


立教大：大学全体でやや減少、特に一般が2年連続減少 一般：-5,504人 共テ：+1,066人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



*コミュニティ福祉は2022年度の(スポーツウエルネス)を除いた志願者数との比較、スポーツウエルネスは2022年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)の志願者数との比較

| | |
|----------------|---|
| 主な入試変更点 | 学部改組：コミュニティ福祉(福祉、コミュニティ政策、スポーツウエルネス) →コミュニティ福祉(福祉、コミュニティ政策)、スポーツウエルネス 選抜方法：<共テ・英語外部試験活用>…スコア変更 募集人員：コミュニティ福祉(福祉)…<一般>86人→76人、<共テ>20人→17人 (コミュニティ政策)…<一般>91人→134人、<共テ>20人→30人 スポーツウエルネス…<一般>49人→90人、<共テ>15人→30人 |
|----------------|---|

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,438人(93)の2年連続やや減少。方式別では、一般方式は5,504人(86)の減少で2年連続減少。共通テスト利用方式は1,068人(105)の2年連続やや増加。一般方式は、文を除き大学独自の英語の出題がなく、民間の英語4技能資格・検定試験または共通テスト英語の受験が必須であることから、私立大専願層を中心にこれを負担増と感じる層が敬遠した影響があった。学部別では、新設のスポーツウエルネスは2022年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)との比較で(138)の大幅増加、経済(126)は大幅増加、学部改組のコミュニティ福祉は2022年度の(スポーツウエルネス)を除いた比較で(112)の増加、理(109)は増加。一方で、法(55)、経営(81)、現代心理(82)は大幅減少、文(90)、社会(90)は減少、観光(96)、異文化コミュニケーション(96)はやや減少で11学部中7学部が減少。

- <一般方式>
- 文(86)**は、2年連続減少。学科・専修別では、(文/フランス文学)(116)、(文/ドイツ文学)(115)はいずれも大幅増加。一方で、(キリスト教)(43)、(文/文芸・思想)(74)、(史)(77)はいずれも大幅減少、(文/英米文学)(86)、(教育)(87)は減少。
 - 現代心理(77)**は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(映像身体)(70)は大幅減少、(心理)(88)は減少で4年連続減少となり、志願者数も1,000人を下回った。
 - 法(53)**は、ほぼ半減、3年ぶりの減少で志願者数は3,000人を下回った。学科別では3学科とも大幅減少で、(国際ビジネス法)(33)は募集人員が13%減少もあり前年度比3分の1、(政治)(59)は大幅減少で2年連続減少、(法)(60)も大幅減少で2年連続減少。
 - 経済(103)**は、3年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(経済)(119)は大幅増加で6年ぶりに増加。一方で、(経済政策)(81)は3年連続大幅減少、(会計ファイナンス)(83)も大幅減少。
 - 経営(87)**は、5年連続減少、志願者数は2,500人を下回った。学科別では、(国際経営)(83)は大幅減少で4年ぶりに減少、(経営)(89)は5年連続減少。
 - 社会(84)**は、大幅減少。学科別では、3学科とも減少し、(現代文化)(75)、(メディア社会)(85)は大幅減少、(社会)(89)は減少で、いずれも2年連続減少。
 - 観光(94)**は、やや減少で5年連続減少。学科別では、(観光)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(交流文化)(75)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続。
 - 学部改組の**コミュニティ福祉(115)**は、前年度の(スポーツウエルネス)を除いた比較では大幅増加。学科別では、(コミュニティ政策)(156)は募集人員が47%増加に加えて、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(福祉)(76)は募集人員が12%減少もあり、大幅減少。
 - 異文化コミュニケーション(87)**は、系統への低い人気もあって減少で2年連続減少。
 - 理(95)**は、やや減少。学科別では、4学科中で増加は(物理)の1学科のみ。他の3学科は減少で、(数)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(化)(92)は減少、(生命理)(97)はやや減少。
 - 新設の**スポーツウエルネス(147)**は、前年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)との比較では、募集人員が84%増加もあり大幅増加。志願者数は1,088人と5年ぶりに1,000人を上回ったが、募集人員増加により、志願倍率は15.1倍→12.1倍にダウン。

<共通テスト利用方式>

- 文(99)**は、2年連続で前年度並。学科・専修別では、(文/ドイツ文学)(291)は2年連続大幅減少の反動で3倍近い激増、(文/日本文学)(119)は4年連続減少の反動で大幅増加、(文/フランス文学)(108)は増加で2年連続増加。一方で、(キリスト教)(54)は大幅減少で3年連続減少となり志願者数は60人を下回った。(史)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(文/文芸・思想)(79)は2年連続増加の反動で大幅減少、(文/英米文学)(84)は大幅減少で2年連続減少。
- 現代心理(90)**は、2年連続減少。学科別では、(映像身体)(86)は3年連続減少、(心理)(93)はやや減少で2年連続減少。
- 法(58)**は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では3学科とも大幅減少で、(国際ビジネス法)(23)は前年度6倍以上の激増の反動で激減、前年度の反動による増減も継続。法(80)、(政治)(85)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。
- 経済(158)**は、大幅増加で3年連続増加。学科別では、(経済)(198)はほぼ倍増、(会計ファイナンス)(131)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(経済政策)(98)は2年連続大幅増加の反動は小さく微減。
- 社会(103)**は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(現代文化)(127)、(メディア社会)(117)はいずれも大幅増加。一方で、(社会)(77)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 観光(102)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、(観光)(180)は前年度大幅減少の反動で激増、2021年度以降は反動による大幅な増減が継続。一方で、(交流文化)(50)は前年度2倍以上の激増の反動で半減、2018年度以降は反動による大幅な増減が継続。
- 学部改組の**コミュニティ福祉(107)**は2022年度の(スポーツウエルネス)を除いた比較ではやや増加。学科別では、(コミュニティ政策)(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、2021年度以降は反動による大幅な増減が継続。一方で、(福祉)(81)は大幅減少で2年連続減少。
- 理(130)**は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(生命理)(169)は前年度大幅減少の反動で激増、(物理)(154)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(化)(95)はやや減少で3年連続減少。(数)(98)は2年連続増加の反動は小さく微減。
- 新設の**スポーツウエルネス(127)**は、2022年度のコミュニティ福祉(スポーツウエルネス)との比較では、募集人員の倍増もあり大幅増加。志願者数は721人と4年ぶりに700人を上回ったが、募集人員増加により、志願倍率は37.9倍→24.0倍にダウン。